日本共産党の地域新聞　発行所：日本共産党夕張市委員会　夕張市千代田２番地の２　TEL＆FAX　52-3097　2010年11月21日（日）第1390号(1)

民報 ゆうばり

市党事務所にインターネット

ホームページ開設し、双方向で情報発信！

市民と党、双方向でつながりましょう！

党夕張市委員会事務所では情報発信と市民の声を広く受け取る機能をそなえることを目的に、インターネット通信を導入しました。

これは、情報発信の方法としてホームページを開設し、基本政策の「ゆうばり再生プラン」を始めとして今取り組み中の「市民アンケート」のことなど、市民に知らせたいこと、役に立つ情報の提供をすること、市民の声を常時寄せてもらえるよう投稿欄も準備して、市民と党が双方向でつながれるように設定しました。

この他にインターネットの活用は文字情報だけでなく写真や動画のデーターが必要な時に即時入手でき、後援会活動などで詳しい内容がほしい時に対応する事も可能になります。

現在、インターネットの利用者がここ十年間で六倍の九千万人に広がり、携帯電話からの接続を入れると一億六千万人になると言われています。

選挙もネット時代に！

このような広がりの中で今年の参議院選挙前に「ネット選挙運動解禁・民主党提案か？」とまで報道されました。

考えられている案は政党と候補者、さらに第三者がホームページやブログ、ツイッターなどで選挙運動ができるようになるというものです。

また、選挙運動に有効な機能として動画の活用が注目されています。昨年の総選挙で共産党候補者の百七人が「政見動画」を掲載し、テレビ報道が全体として「三大政党」に偏った報道をするなか、インターネットの映像で党の姿を知らせる重要な情報源になりました。

今年の参議院選挙に向けて各党の候補者が行ったホームページなどのインターネット選挙対策は開設率にして民主党が87％、自民党89％とかなりの力の入れようであったと伝えられています。

さらに、中学・高校などでインターネットを学習した世代が、数年前から有権者になっていること、会社でパソコンを使う現役世代、退職後の熟年世代などにもインターネットを活用して様々な情報を入手することが当たり前の有権者が増えています。

日本共産党夕張市委員会のホームページ

熊谷桂子さん情報発信にも大活躍！

5ヶ月後に迫った統一地方選挙に向けて、市委員会と市議候補の熊谷桂子さんは、これまでつながりの薄かった、市内福祉施設や中小企業、工場等で働く若者や農業者などに向けて、街頭宣伝やチラシ配布などこれまでの宣伝活動をさらに広げる手立てとして、情報発信につとめていこうとホームページの充実に取り組んでいます。

市民アンケートからの声

～市民参加のまちづくりをめざして！～

日本共産党夕張市委員会は、市民参加のまちづくりの観点で10月よりアンケートを実施してきました。全市的には、まだ未届けの地域もありますが、回答をいただいた方々からは、次のような声が寄せられました。

生活上の様子を伺う項目では、生活に見合った収入がなく大変苦しいという声がたくさん寄せられています。

次に、一番困っていること、望んでいることの項目では、仕事がない、除雪で病状が悪化、病院科目の不足、国保・介護・医療費の増額で大変、交通が不便など雇用や生活、健康面での不安が目につきました。

また、小中学校の一校化では、通学に関しての不安が多く、低学年の健康や中学生の部活など、孫やひ孫の将来にも思いを寄せた声がありました。

最後に日本共産党への疑問や要望については、もっと頑張って大きな党に、市議がいないのが残念、今度こそ頑張って、革新政党として親しめる政党になど激励の回答がありました。

現在当市委員会ではこれらの貴重なアンケート回収をデーターとして残し、市政や道政、国政に反映していこうと取り組んでいます。

夕張歴史検証プロジェクト
「夕張の歴史と文化を学ぶ会」

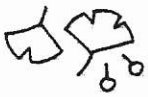
ゆうばり再生市民会議の有志と「夕張学」有志を中心に、「夕張の歴史と文化を学ぶ会」が発足しました。

目的は、夕張の歴史、そして現在、さらに夕張の未来を多面的に考える場、夕張に関する活動や体験を共有する場をつくることです。

世話人は　共同代表（田巻松雄・上木和正）副代表（矢野牧夫・熊谷桂子）。（敬称略）

主な活動は、市民や会員を対象とした発表会・フォーラムや報告会、炭鉱遺産やその他の現地見学会などのほか、「夕張学」の続刊なども計画しています。

第１回の活動として、今月２３日（火）午後１時から研修センターにおいて、学習会「石炭博物館について」を予定しています。



「農業廃ビニールを使った仕事おこし」

ぜひ、参加を！…夕張市民ネット

夕張メロンと夕張川を守る市民ネットワーク（略称夕張市民ネット）では、「農業廃ビニールを使った仕事おこし」の学習会を計画しています。

「地域おこし」は、すべての地域に〝必ず存在する〟自然環境と自然エネルギー＝「地域の宝物」を再発見（再確認）することから始まり、そしてゴールは「地域の担い手」を育てる（育つ）ことにある。この過程は、「地域に仕事を作り出す」（地域産業を創造する）作業…が持論の北海道大学、自然エネルギー研究センター長の大友詔雄先生を講師にお迎えし、メロン農家の廃ビニールを使った仕事おこしを考えます。

会ではたくさんの市民の参加を呼びかけています。

・日時　12月12日（日）　午後1時より
・場所　紅葉山会館

建交労　第67回　定期大会開催

全日本建設一般労働組合夕張支部では、「平和憲法を夕張に生かし、いのち・くらし・権利を守ろう」をスローガンに、１０月３１日、はまなす会館で、第６７回の定期大会を開催しました。

大会では、季節労働者の取り組みや労災職業病、失業者や高齢者の運動なども討議し、日本共産党夕張市委員会を代表して、熊谷桂子前市議が挨拶を述べました。

「国会かけある記」
日本共産党参議院議員
大門　実紀史

「母はつよし」

楽しかった赤旗まつりも終わり、臨時国会も後半戦に入ります。

農業と地域経済を破壊するＴＰＰ（環太平洋・経済連携協定）問題、雇用や社会保障をどうするかなど、課題山積です。また年内には、政府の調査会が消費税増税の方向を打ち出す予定になっています。

先日、母親大会連絡会のみなさんの財務省交渉に同席しました。

今年八月の日本母親大会でかかげられた消費税増税反対などの要求を財務省にとどけるため、全国から十数人のお母さんが参加されました。応対したのは実際に政策立案にたずさわっている三十代の若手官僚たちです。

消費税では最初、激しいやりとりになりました。平然と増税の必要性を説く若手官僚にたいし、「家計をやりくりする苦労をわかっているの！」「中小業者は身銭を切って消費税を納めてるのよ！」と、お母さんたちから機関銃のように言葉が発せられます。しかし、お母さんたちにとっては自分の息子のような年代。どこか、わが子を叱るような温かさがありました。初めはいちいち反論していた官僚たちも、しだいに黙ってお母さんたちの話を聞くようになり、涙ながらの訴えには「勉強させてもらいました」と殊勝な言葉もとびだしました。母のつよさと優しさと涙には、財務官僚も勝てないのです。

私もお母さんたちの姿をみて、その思いを総理大臣にぶつけようとおもいました。テレビ質問で消費税を取り上げるのは久しぶり。近々、そのチャンスが訪れそうです。